



プロジェクト名称

## いくべっ！福島支援プロジェクト

### プロジェクト活動概要

東日本大震災から約4年が経過し、少しずつ復興の目処が立ってきているが、まだ時間がかかるのが現状である。特に福島県は放射線量という目に見えないものを相手にしており、他県と比較しても復興の遅れが顕著である。また福島県の農家の方々は放射線量を下げるために様々な努力や工夫を行っているが世間には広く知られていないのが現状である。このことが、市場に出回っている福島産の食品は安全であるのに、一部の消費者の購買意欲を低下させる原因の一つとなっている。

そこで私たちはそういったことにスポットを当てて、消費者に正しい情報を発信していき、消費者と生産者の橋渡しを行っている。具体的には、様々なイベントに参加し福島産のものを販売しながら呼びかけを行ったり、自分たちで企画した福島ツアーを実施するなどしている。

また、震災の記憶の風化防止ということも目的の一つとして活動を行っている。被災地にはまだ避難生活を余儀なくされている方や、支援の手を必要としている方が沢山いるが、震災から長い時間が経ち日常的に震災に関するニュースを聞くことが少なくなってきた。そこで講演会や展示会の開催などして、一般の方にも再度震災を覚えてもらうための機会を提供している。そして、「福島は震災のあった場所」というイメージを払しょく出来るように、福島の優れている点などを発信するような活動を行っている。

### 活動状況報告&活動写真など 活動期間：2015年1月1日～3月31日

#### ○南相馬ソーラー・アグリパーク見学 2015年3月17日

3月17日に、福島県南相馬市にある、南相馬ソーラー・アグリパークを見学した。この施設は、代表の半谷栄寿さんが震災後に故郷である南相馬に救援物資を運んだ際に、現地の方から「子どもたちのために何かを」と言われたことをきっかけに創設された。

この施設にはソーラーパネル2000枚（最高発電量500kw）が設置されており、同敷地内にある植物工場に電力供給している。また、子どもたちが発電体験できるような装置もあり、小学生や中学生だけでなく、多くの企業が研修として訪れるそうだ。

半谷さんは人材教育の一環として高校生対象にオープンスクールを開催しており、自らの手で事業を始めようとする高校生たちの手助けをしている。私たちに説明をして下さった沖沢さんは、「このオープンスクールに通った高校生が大学生となり、施設などで手伝ってくれることによって、小・中・高生がその姿に憧れて、自分たちが大学生になったときにまた手伝いに来てくれる。このようなサイクルができると、福島の復興を担う人材を育成できるのではないかと思う。」とおっしゃっていた。

この施設で聞いた話は今までの視察とは異なり、震災そのものや、その被害の話というよりは、これから復興していくうえでの人材育成がメインであった。実際に子どもたちと接している方の話を聴くことで、私たちが気付くことができなかつた新しい視点を見つけることができた。また、この施設の方々とのつながりは、私たちが今後活動していくうえで、非常に重要なものになるのではないかと強く感じた。



[教室]



[2000 枚のソーラーパネル]



[手動の水力発電]

○福島大学 スタ☆ふくプロジェクト様へのヒアリング 2015 年 3 月 17 日

私たちは、この視察の際に福島大学の方々のところにも伺いました。こちらでは、福島大学にある、福島県内で行われるツアーの企画をしている「スタ☆ふくプロジェクト」という団体の人たちと連携をとらせていただいた。

私たちが伺った理由として、まず、今後の活動目的の一つでもある、若い人たちに対しての情報発信や取り組みという点から、同じ学生がどのような活動しているかを教えていただきたいこと、また、自分たちもツアーを行っている経験があるので、単純に私たちの活動の参考にしていけるのではないかと考えた。

そして、主に伺った内容は上記のような、理由が満たされるようなことであり、具体的には、

- ・何故活動を始めたか、
  - ・ツアーを行う際の、参加人数、ツアー場所(内容)、募集方法、など
- これらのことをお聞きした。

特に印象的だったものは、ツアー内容・募集方法である。これらの二つに共通して、自分たちが行ってきたものを大きく上回っていると思った。内容はとても練られていて、その場所に行く意味などが明確であり、また、募集方法については、SNS はもちろんのことツアー会社などにも依頼をし、宣伝してもらうこともしていて、かなり力を入れていた。

この福島大学訪問により、学生がこのような企画をしていくためのノウハウを具体的に知ることができ、今後の私たちの活動の発展への参考にすることができたと考えている。



[福島大学訪問の様子]



[スタ☆ふくの方との写真]



## 今後の活動計画、目標、意気込みなど

### ● 今後の活動計画

今後の活動計画として5月に実施される大宮祭での屋台販売、報告会に向けての準備や来年度の企画に向けて動き出すことである。

来年度の主な企画について、福島ツアーでは「若い世代に繋いでいく」という新たな活動の軸において参加対象を中高生に絞り、ツアー内容もワークショップを行うなどスタディツアーのようなものにしたと考えている。また会員制度のようなシステムを作り、定期的に情報を発信すると共にJAさんの方ご協力を得ることができれば同じく定期的に福島産の農産物を購入できる機会を与えたいと考えている。

### ● ビジョン、意気込み

来年度の新たな活動の軸として「若い世代に繋いでいく」というテーマを掲げたが、そもそも私たちが様々な活動を通していくうえで福島県をどうしたいのか、そのビジョンをメンバー間で再確認した結果、今までの経験やつながりを生かした「震災以前よりも大きく、観光地や食べ物などで人気を誇るような福島県にしたい」というビジョンとなった。そのビジョンを達成するために、これまでの活動の軸を方針とし継続、反復を大切にしてこれからも頑張っていきたい。